

けはい
気配

冬の曇天の間から鮮やかな青が滲み
ひらひらとした空想の時間がのぼってゆく
あの青の中に溶けてしまえばいい、と僕は思う
お前には、この現在の中に居場所はないのだから

次第に雲が白くつややかに光りはじめる
そして次第に無色透明な大気の中に融け去ってゆく
春が来る いつものように
けれど今年は少しばかり早く・・・

北風と東風が交互に戯れるこの季節の移り変わり目は
いつも僕に、笑みの中に、両掌を包み込む時間を与える
浮かれ騒ぐような、やかましく、呆れ果てた会話も
過去の中へと静かに送られた、満足感に充ちた足音も、ともに

雲が消えてゆく
鮮やかな青 白く薄めたような青ではない鮮やかな青
それとも、雲ばかり見ていたからだろうか・・・
昨夜、ほんの通り雨だけを残した雲が消えてゆく

のぼれ
そして溶けてしまえ
地上でのあらゆる時間を忘れ去るがいい
そして記憶ということさえ、あの青の中へと溶かしてしまうがいい

(2004.2.15)